

とちぎ米産地だより 【10月号】

<24年産のとちぎ米に関する情報をいち早くお届けします！>

第7号 平成24年10月9日
発行責任者:JA全農とちぎ 米穀課

1. とちぎ米生長日記

●24年産とちぎ米の作況指数は100、
予想収量は 540kg/10aが見込まれます。

本年度は5月・6月の低温と日照不足により生育は抑制されましたが、7月以降の高温、8月中旬以降の高温・多湿と気温日較差もあったため、登熟は「やや良」となりました。

- 穂数 : 平年並み
- 1穂当たりもみ数 : やや少ない
- 登熟 : やや良
- 全もみ数 : やや少ない

★9/28現在、刈り取り(早植)は県全体で85%まで進んでいます。

2. 全農イベント情報

栃木の田んぼで 親子仲良し稲刈り体験ツアー

- 2012年9月15日(土)
- 主催/JAグループ栃木
協力/JAうつのみや
- 栃木県上三川町 石田地区
- 農業組合法人 石田ファーム

JAグループ栃木は、栃木県上三川町にて『栃木の田んぼで親子仲良し稲刈り体験ツアー』を開催しました。抽選で選ばれた東京都内の親子40名を招待し、農事組合法人・石田ファームの方々からの指導を受けながら、慣れない鎌に苦戦しながらもたくさんの稲を刈り取りました。後半には子供達は生産者の方が運転するコンバインにも乗車させて頂き都会では味わえない貴重な体験を楽しみました。

お昼には石田地区で取れたびかびかの新米と、栃木県産の食材をふんだんに使ったお弁当、特産かんぴょうの卵とじ汁、上三川町で取れた梨などを味わって頂きました。全農とちぎからはお土産

に県産「コシヒカリ 穂の香」新米2^キと「ほのかちゃんエコバック」、JAうつのみやからは管内産の梨が贈られ、参加者の方々も大変喜んでいました。



3. 産地紹介 ～栃木県内のJAを紹介します！～



愛・生命そして未来へ



JAはが野は関東平野の栃木県南東部に位置し、首都圏100km圏内エリアです。JA管内は真岡市(平成21年3月23日より二宮町は真岡市と合併致しました。)・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町の1四4町からなっており、総面積は約564km²で県全体の8.8%にあたり、耕地面積は18,600ヘクタール程です。東部の中間山地を関東随一の清流といわれる那珂川が流れ、西部の鬼怒川左岸では、ゆるやかな大地となり、肥沃な穀倉地帯で形成されています。

ロゴマークは『はが』のひらがなの部分は豊かに実る果実・大地の実を一体化したイメージを図案化したものです。『野』の部分は『里』『予』に分解してイメージ化し、『里』の部分は農の営み、豊かなくらしの社会を表現しました。『予』の部分は、自然(山・川・大地)がもたらしてくれる恵みを未来に継承するイメージで表現されています。

管内でのイチゴの生産量は日本一であり、県内でも全体の三分の一を占めています。管内はイチゴ狩り施設も多く、『益子観光いちご園』では、時間無制限で大粒で甘いとちおとめが食べ放題です。イチゴハウス111棟もの規模があり、東京ドームが丸ごと入ってしまう程の広さです。レストランや地元の野菜・果物を売る直売所も併設されています。また真岡の『井頭観光いちご園』でも、とちおとめが時間無制限で食べ放題です。期間は1月上旬～5月で、高設ベンチのハウスもあるため、腰を曲げることなくイチゴ狩りを楽しむこともできます。



またJAはが野の梨の生産量は県内全体の約三分の一を占め、中心的な産地となっています。シャリッとおいしい歯ざわりで人気の赤梨「幸水」・「豊水」は、無袋栽培で太陽の光をふんだんに浴び、甘くてみずみずしく、夏バテ解消にも効果があると言われてしています。はが野では毎年秋に梨まつりが開催されます。

JAはが野では、はが野ブランドを確立するため、生産者のコスト低減、バラ化の拡大、管内施設のサテライト方式の拠点、特別栽培米への取り組みなど、生産者をサポートし、売れるコメづくりの推進を図るためカントリーエレベーターを中心として地域連携システムの構築を図っています。消費者・実需者のニーズに応え安全で高品質な米を長期的に安全供給が可能とする施設の整備・物流合理化に取り組んでいます。

<<集荷施設のサテライト運用について>>

サテライト運用とは、生産者近辺のライスセンターにて米の集荷を行い、そこから各銘柄別に仕分けされ、それぞれの基幹施設として定められたライスセンターやカントリーエレベーターへと搬送する仕組みです。空き具合を見ながら同じ銘柄を一気に舂りできるので、スムーズで高品質のお米を仕上げる事が可能です。

<<特別栽培米の取り組みについて>>

JAはが野は米の大産地であり、特に米のブランド化に向け、特別栽培米(減農薬・減肥料)に取り組んできました。平成23年産では、栽培農家454人が約878.2ヘクタールで取り組み、3,450tを出荷するなど、売れる米づくりに積極的に取り組んでいます。この特別栽培米は、平成9年産から取り組みを開始し(当時は減農薬のみ)、生協をはじめとする首都圏の消費者に長年支持されています。



※ 問合せ先 ※

◆内容に関する、ご意見、ご質問、ご感想も、是非、お寄せください。

JA全農とちぎ 米穀課 電話:028-626-2174 FAX:028-621-2037